日本のこころ⑤「枕草子」清少納言

１ウォーミングアップ

①欄間

②ひねくれ者

③親が親なら子も子だ

④火花を散らす炭火

⑤絶好の散歩日和

⑥乳幼児

⑦春のうららかさ

⑧こもれび

⑨菜の花

⑩シンメトリー

⑪朝顔

⑫七宝焼き

⑬雁の編隊

⑭和洋折衷

⑮中国通のインテリ

⑯胸がキュンとする

⑰市松模様

⑱通り一辺倒のこと

⑲おまじない

⑳シュールだ

２ウォーミングアップ②
①人生働いてなんぼだろうと思う。

②寒くないと言えば嘘になる。

③「春」の語源は「張る」、つまり植物が一斉に萌えることだという。

④紫外線アレルギーで免疫が低下する

⑤鼻持ちならない人物

⑥権威に唯々諾々とひれ伏す。

⑦彼女らは反りが合わない

⑧私も親ばかながら何度もそう思った。

⑨未熟な子がひたむきにがんばるのを、みんなで応援する

⑩唐風文化が日本に土着化する

⑪非日常的な時間

⑫一般公開された迎賓館

⑬欧州の宮殿と瓜二つだ

⑭宮中で頭角を現す

⑮私の漢詩力を試すなんて！

⑯たいしたことないのに恥ずかしげもなく知識をひけらかす

２翻訳

① 「春はあけぼの」「夏は夜」「秋は夕暮れ」「冬はつとめて」というフレーズに疑問を投げかけてみようと思う。これらを日本人の四季彩の基準として金科玉条のごとくありがたがることは、思考停止ではないかと思うからだ。

② 絶対に行くことのできない憧れの廬山を夢見、その世界観をシェアできる唯一の「仲間」として白羽の矢を立てたのが、他でもない、清少納言だった。

③ 今の御所がまがい物とまではいえないが、見方によっては罪深い。千年前と位置も建築も異なるのに、素人向けの案内がなされないため、今の御所の面影に平安朝を重ね合わせる人が続出するではないか。

④ 私が平安貴族の中国に対する思いを感覚的に追体感するなら、1909 年に建てられた欧州の雰囲気あふれるこの迎賓館赤坂離宮がぴったりだと考える理由はそこにある。

⑤ あの得意満面な様子がたまらない。あんな奇をてらう人は悪いとこに限ってよく目立つもの。賢そうに漢字を使いまくるくせに、よく見ると書き間違えていて、板についてない。

⑥ これらはみなこの島国で繰り返されてきた「主体的な」クレオール文化である。これは中南米のように欧州の侵略者がもたらした結果の融合ではない。

（宿題はここまで）

３通訳（受講日までご覧にならないでください。）

① 職場での戦力にもならず、家事や育児もままならない青少年期は、いまだ花咲かぬ冬である。

② 70 代でも業界人として生涯現役で、体をだましだまし使いながらもそれまでに培ってきた技術や人脈で起業する。

③ 私も夏の「開放感」が好きだった。それは学校に行かなくてもよい「解放感」からきている。

④ 「かわいい」というのは「小さい」「丸い」に加えて放っておけない「幼さ」と「いやされる」要素が必要なのだ。

⑤ 彼女はギャップを二項対立とみるのではなく、陰と陽が一つにとけ合っている様子に萌えたのだ。

⑥ とっさの際の気の利いた都会的なふるまいは、越前生まれの不器用な紫式部には苦手だったようだ。

４スピーチテーマ

①A 年金　B 雪かき　C 蛍

②A ラジオ体操　B 熱中症　C ゆるキャラ

③A 敬語　B 太鼓橋　C 迎賓館